

金沢工業大学 アセスメントポリシー

金沢工業大学では、学生の学修成果について、アドミッションポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマポリシー（学位授与方針）の3つのポリシーに照らし合わせて、内部質保証として下記のような検証方針や実施体制（アセスメントポリシー）を整えている。これにより、卒業要件の必要単位数だけではない学修成果の質的測定を行っている。

1. 学科のディプロマポリシーの設定

- ・建学綱領に従い大学全体の教育目標が設定され、これに基づいたディプロマポリシーを設定し公開している。
- ・大学全体のディプロマポリシーに沿って学科のディプロマポリシーを設定し公開している。

2. ディプロマポリシーに基づいた学科の「学習・教育目標」とカリキュラム設定

- ・学科のディプロマポリシーに基づき、学科ごとの「学習・教育目標」（修得する能力）を設定し公開している。
- ・学科の「学習・教育目標」はカリキュラム修了で達成できるよう設定している。「学習・教育目標」は学科のホームページで公開している。

3. 「学習支援計画書」と「学習・教育目標」の対応

- ・「学習支援計画書」（シラバスに相当）の中に「学生が達成すべき行動目標」（科目履修で修得できる能力）と学科が掲げる「学習・教育目標」（学科で修得する能力）が対応づけられ明示されている。これにより、科目履修により修得できる能力が、学科が掲げるどの教育目標に相当するのか分かる仕組みとなっている。
- ・科目担当教員は、授業開始時に「学習支援計画書」の内容周知が義務付けられている。なお、授業アンケートではこれを確認している。

4. プロジェクトデザインⅢの評価

- ・「プロジェクトデザインⅢ」は4年次に開講される科目で、一般の卒業研究に相当する。指導担当教員のもとで1年間を通してプロジェクトテーマ（研究・作品・課題）を調査し、プロジェクトレポート（卒業論文・レポート）を作成する。その意味で、「プロジェクトデザインⅢ」の成果は、これまで修得した学修成果の集大成に位置付けられる。
- ・この最終成果は、学内で開催される公開発表審査会において審査される。プロジェクトレポートの発表内容について、教員グループや外部参加者と質疑応答を行い、その結果を評価して合否判定している。このように、学生の学修成果の集大成に対して客観性および透明性の高い評価方法で測定している。

1～4. に加えて、学修成果に関わる次のような仕組みや指導体制があり、学修成果の確認やこれを向上させる教育指導が実施されている。

■組織レベル

<全学的な点検・検証作業>

5. KIT 総合アンケート

- ・卒業・修了直前生（毎年）や卒業・修了生（5 年毎）には卒業時の能力について、「知識を取り込む力」、「思考・推論・創造する力」、「発表・表現・伝達する力」、「学習に取り組む姿勢・意欲」、「コラボレーションとリーダーシップ」の項目で修得度合いを確認している。
- ・KIT 総合アンケートの結果は調査・分析され報告書として学内公開されている。

<修学アドバイザーの体制>

6. 修学アドバイザーによる修学指導

- ・学年・学科・クラスごとに修学アドバイザー（専任教員）が選任されている。4 年次は研究室の指導担当教員が進路指導および修学アドバイザーを兼任する。
- ・修学アドバイザーは学期開始時にクラス・オリエンテーションを行い、学生の修学状況や生活状況を確認している。クラス・オリエンテーションに加えて個別面談も実施しており、面談記録は学内システムに入力するとともに、修学指導歴は学生指導を担当する教職員に共有されている。
- ・大学全体の修学状況（年度・学年・学科ごとの QPA ポイント*¹、退学率や卒業率など）は主任会議*²を通じて全教員に周知される。

<学修成果の相互確認>

7. QPA ポイントによる学修成果のレベルの確認

- ・個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における 1 単位当たりの成績評価の平均値を表す値である。QPA ポイントは学科・学年毎の平均値も算出されており、学生の学修成果のレベルが定量的に分かるようになっている。
- ・QPA ポイントは修学指導の基礎情報となる他、学生自らの達成度の確認、さらに就職指導や大学院進学指導（学内推薦資格の基準）にも役立てられている。

8. 学生自らの学修成果の確認システムの整備と運用

- ・「KIT ナビ」
履修状況および履修履歴（成績評語による可否、出席率）の自己確認システムを整備し運用している。
- ・「自己成長シート」
修学履歴、単位修得状況、学長褒賞取得状況、課外活動状況、インターンシップ、活動記録、受講講座、PERMA-Profiler KIT 版などが自己確認できるシステムを整備し運用している。
- ・「e シラバス」
「学習支援計画書」をベースとしたネットワーク上の学習支援システムである。この中で、「学生が達成すべき行動目標」（科目履修で修得できる能力）と対応した「学習・教育目標」（修得する能力）が表示されており、必要に応じて随時確認できる。

■教育課程レベル

<教育課程レベルの点検・検証作業>

9. 全学「自己点検・評価報告書」

- ・全学科・課程において、教育目標、教育課程の編成、教育活動の実施と教育環境、学生の受け入れ、教員組織、教育成果の検証とフィードバックなどについて自己点検している。
- ・この点検・評価作業は教育課程レベルの点検・検証として位置付けられ、その結果は教育点検評価部委員会で整理され学内公開（教職員のみ）している。

<入学生の基礎学力測定>

10. 英語・数学の基礎学力測定

- ・1年次入学直後に「修学のための学力診断（英語）」を実施し、新入生の英語に対する基礎学力を測定している。また、これに基づいた英語教育カリキュラムの推奨レベルの設定を行っている。（英語教育課程）
- ・1年次入学直後に「修学のための学力診断（数学）」を実施し、新入生の数学に対する基礎学力を測定している。これに基づき数学教育を実施している。（数理基礎教育課程）
- ・英語、数学の基礎学力の測定結果は学年全体および学科別に整理され、主任会議を通じて全教員に周知される。

<進路アドバイザーの体制>

11. 進路アドバイザーによる就職・進学指導

- ・学科に1名の進路主事を選任し学科全体の進路指導を統括している。なお、4年次の指導担当教員は研究室所属学生の進路アドバイザーとなり進路指導を行っている。（専門教育課程）
- ・進路主事は企業の採用担当者と面談する機会が多く、社会や実業で求められる人材の能力を常に把握している。これに基づき、専門教育の向上を図っている。
- ・大学全体の進路状況（求人・内定・進学率、上場企業・公務員・教員内定率など）は主任会議を通じて月毎に全教員に周知される。

■科目レベル

12. 学習支援計画書

- ・一般のシラバスに相当するが、学生が科目履修を行うに当たり、学修支援できる内容が記述されている。具体的には、科目概要、学生が達成すべき行動目標（履修で修得できる能力）、評価方法と評価基準、達成レベル（標準レベル・理想レベル）、授業明細などが記載され公開されている。
- ・「学生が達成すべき行動目標」（科目履修で修得できる能力）および学科・課程の「学習・教育目標」（学科で修得する能力）の対応が明示されている。授業開始時に学習支援計画書の内容を説明し、科目履修によりどのような能力が身につくかを説明している。

13. 自己点検授業

- ・15週100分授業を実施している。このうち、授業毎に原則として10分間を自己点検等

の振り返り時間に当てている。この自己点検授業で、教員と学生の双方向で授業内容の理解度を確認している。

14. 授業アンケートの実施と結果の点検作業

- ・ 授業終了時に全科目で授業アンケートを実施し、「学生が達成すべき行動目標」（科目履修で修得できる能力）の修得度合いを確認している。
- ・ 授業アンケートの集計結果は全教員に公開され、科目担当教員にはこれに基づいた「授業点検シート」*³および「フィードバックコメント」*⁴の提出が義務づけられ学内公開（教職員のみ）されている。

* 1 QPA ポイント

評語

S（秀）・A（優）・B（良）・C（可）

D（成績不良）・Z（履修済）・F（出席不良）

評価ポイント

S：4ポイント、A：3ポイント、B：2ポイント、C：1ポイント

D・Z・F：0ポイント

QPA ポイント = (評価ポイント × 単位数) の総和 / 履修科目の総単位数

* 2 主任会議

学長、副学長、学部長、各部長、学科・課程主任、学科・課程副主任、大学事務局長、大学事務局の課長級以上の職員が出席する。この内容は、学科・課程主任から、学科・課程会議として所属教員に周知される。

* 3 「授業点検シート」

各科目のアンケート結果が担当教員に示され、これに対して自己評価を行い改善点などについて回答するシステムである。PDCAのCA部分を促すシステムである。

* 4 「フィードバックコメント」

各科目のアンケート実施時の自由記述コメントに対する科目担当教員の返答は学生に公開される。